

# IV-3 関東

東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた準備の加速とともにポストオリンピックの観光振興を模索する動き

## (1) 都道府県レベルの旅行者動向

### ① 宿泊者数の動向

観光庁「宿泊旅行統計調査」によると、2017年1～12月の関東地方の延べ宿泊者数は1億5,275万人泊で、前年比4.8%増と、昨年の1.9%減から増加に転じた(図IV-3-1)。

都県別にみると山梨県が前年比3.9%、栃木県が0.9%それぞれ減少したほかは増加傾向である。特に千葉県が12.6%、神奈川県が10.7%、東京が4.2%の増加であったが、それら以外は3.0%未満の増加幅にとどまった。千葉県については東京ディズニーリゾートの入園者数(年度ベース)が2年連続の減少から微増に転じたこととの関連が考えられる。

外国人延べ宿泊者数は2,873万人泊で、前年比10.2%増となり、伸び率も前年(2.3%増)に比べ回復する動きが見られた(図IV-3-2)。

都県別にみると引き続きその増減の振れ幅が大きい。昨年

そろって大幅増となった北関東三県も群馬県が36.0%増で埼玉県(29.5%増)と並んで好調を維持した一方、栃木県は7.7%増、茨城県は2.7%増と大きな差となった。そのほかは、山梨県が17.3%増、新潟県が18.1%増など関東全体としては好調であった。

## (2) 観光地の主要な動き

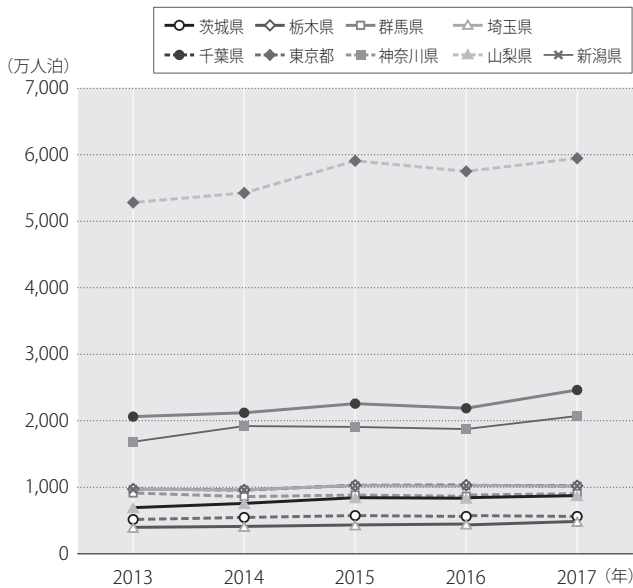
### ① 地方・都道府県レベル

#### ●「新しい茨城づくり」政策ビジョン策定(茨城県)

茨城県は、これからの10年を県の飛躍にとって極めて重要な期間ととらえ未来に希望の持てる「新しい茨城づくり」を推進するため、具体的な政策の方向性を「新しい茨城づくり」政策ビジョンとして2017年12月に取りまとめた。

「活力があり、県民が日本一幸せな県」との基本理念の下、4つの新しいチャレンジに取り組む内容である。観光に関連する施策は「新しい夢・希望」へのチャレンジの一環として記載が見られ、「魅力度No.1プロジェクト」の項では従来の観光地・観光資源にこだわらず県民が誇りに思う暮らしやすさなど新たな切り口での魅力発掘や、郷土の魅力を発信する「県民誰も

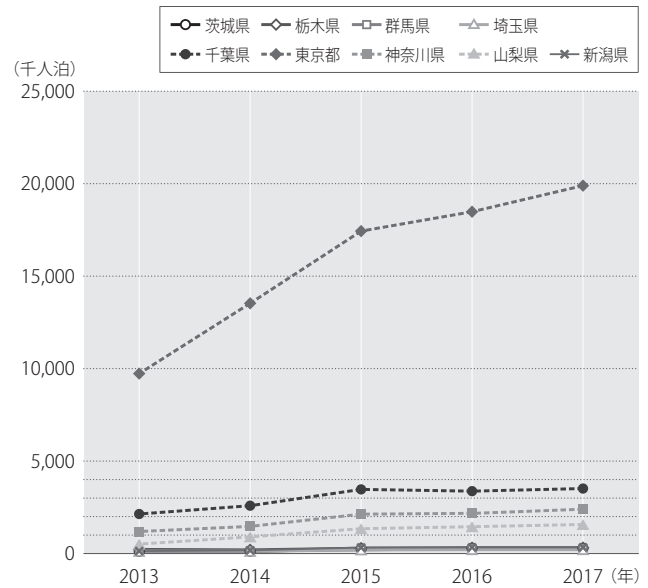
図IV-3-1 延べ宿泊者数の推移(関東)



| 都道府県 | 2013  | 2014  | 2015  | 2016  | 2017  |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 茨城県  | 515   | 546   | 574   | 561   | 561   |
| 栃木県  | 972   | 958   | 1,029 | 1,032 | 1,022 |
| 群馬県  | 914   | 859   | 883   | 865   | 876   |
| 埼玉県  | 397   | 411   | 433   | 447   | 459   |
| 千葉県  | 2,062 | 2,120 | 2,257 | 2,188 | 2,464 |
| 東京都  | 5,282 | 5,426 | 5,909 | 5,751 | 5,995 |
| 神奈川県 | 1,684 | 1,920 | 1,907 | 1,875 | 2,076 |
| 山梨県  | 693   | 757   | 843   | 835   | 802   |
| 新潟県  | 968   | 961   | 1,026 | 1,020 | 1,020 |

単位: 万人泊  
資料: 観光庁「平成28年宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

図IV-3-2 外国人の延べ宿泊者数の推移(関東)



| 都道府県 | 2013  | 2014   | 2015   | 2016   | 2017   |
|------|-------|--------|--------|--------|--------|
| 茨城県  | 88    | 94     | 201    | 225    | 231    |
| 栃木県  | 179   | 159    | 232    | 252    | 272    |
| 群馬県  | 109   | 112    | 160    | 214    | 291    |
| 埼玉県  | 98    | 99     | 159    | 170    | 219    |
| 千葉県  | 2,050 | 2,667  | 3,500  | 3,345  | 3,675  |
| 東京都  | 9,831 | 13,195 | 17,561 | 18,060 | 19,776 |
| 神奈川県 | 1,067 | 1,433  | 2,156  | 2,161  | 2,337  |
| 山梨県  | 492   | 949    | 1,252  | 1,371  | 1,609  |
| 新潟県  | 107   | 136    | 263    | 267    | 315    |

単位: 千人泊  
資料: 観光庁「平成28年宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

が茨城観光大使」となる機運醸成などを、また「ビジット茨城～新観光創生～」の項では海外からのMICE誘致による国際交流の活性化、地域資源の開拓や新たなアクティビティの充実による観光需要の喚起などを掲げている。なお2018年9月には同ビジョンを踏まえた「新たな茨城県総合計画」が策定される予定。

#### ●「観光立県とちぎの実現に向けたおもてなしの推進等に関する条例」施行（栃木県）

栃木県は、豊かで活力ある栃木県として今後も発展していくため観光立県とちぎの実現を図る必要があるとして、県を挙げてのおもてなしの推進のため、2017年4月1日「観光立県とちぎの実現に向けたおもてなしの推進などに関する条例」を施行した。

観光事業者、観光関係団体、県、県民やその他事業者それぞれの役割を明記した上で、観光立県の実現に関する基本的な計画の策定と観光立県の実現に関する施策について触れており、後者は「おもてなしの推進」「魅力の創出」「観光宣伝活動の実施など」「観光旅行の促進のための環境の整備」「外国人観光旅行者の来訪の促進」「人材の育成」「多様な主体の連携の促進」「調査の実施等」「国等との連携」からなる。

特に「おもてなしの推進」と「観光旅行の促進のための環境の整備」についてはより具体的な記載がなされ、前者ではおもてなしに関する研修の機会の充実や、県民や観光事業者の県内の魅力に関する学習の機会の充実などに必要な施策を講ずるものとした。また後者では観光旅行者の利便の増進のため、高齢者、障害者、外国人その他特に配慮を要する観光旅行者が円滑に利用できる宿泊施設などの整備とそれらの利便性向上や、観光旅行の安全確保のため事故の発生の防止などに必要な施策を講じるものとしている。

#### ●総合計画「次世代への飛躍 輝け! ちば元気プラン」策定（千葉県）

千葉県は、チャンスを活かし、次世代が誇れる光り輝く千葉へのさらなる飛躍を目指し、2017年10月、総合計画「次世代への飛躍 輝け! ちば元気プラン」を策定した。計画期間は、2017～2020年度までの4年間である。その特色として「千葉県が持つ宝・ポテンシャルの活用」「特性・可能性を踏まえた地域の方向性」「次世代につなぐための視点」「分かりやすい計画」の4点を標榜し、「安全で豊かなくらしの実現」「千葉の未来を担う子どもの育成」「経済の活性化と交流基盤の整備」からなる3つの基本目標を掲げた。県づくりの方向性として圏央道や東京湾アクアラインをはじめとする広域的な幹線道路ネットワークとこれに繋がる道路整備を念頭に、県内各地域の活力を確保するとしている。

重点的な施策・取り組みとして12の政策分野に及ぶ871の具体的な事業を提示し、観光に関連する内容は主として「国内外の多くの人々が集う魅力ある県づくり」に記載される。同施策分野は「千葉の『宝』を生かした観光立県の推進と移住・定住の促進」「国際都市として発展するCHIBAづ

くり」の2つの施策項目からなり、前者は「何度でも訪れたいくなる魅力ある観光地づくり」「観光産業の競争力強化」「戦略的な国内観光プロモーションの展開」「東京オリンピック・パラリンピックを契機としたインバウンドの推進」「地域の特性を生かした移住・定住の促進」で構成される。一方後者には「国際交流、国際協力の活発化」「海外プロモーションなどによる観光客の誘致促進」「MICEの誘致促進と幕張メッセの競争力強化」などが位置づけられた。また政策分野「活力ある県土の基盤づくり」には「成田空港の機能拡充と空港を活用した県経済の活性化」が盛り込まれ、主な取り組みとして「成田空港を活用した県経済の活性化」「成田空港周辺地域の振興」などが位置づけられた。

#### ●「東京都観光産業振興実行プラン」策定（東京都）

東京都は、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催をはじめとして、東京の観光を取り巻く環境が急速な変化を遂げていることを踏まえ、中期的な視点に立って総合的かつ体系的な施策展開を目指し、2017年1月、「東京都観光産業振興実行プラン」を策定した。これは2016年12月に策定した「都民ファーストでつくる『新しい東京』～2020年に向けた実行プラン～」に記載された観光施策の分野を取り上げ、翌年度に実施する具体的な観光施策などを掲載するもので、状況の変化に応じ、毎年度内容を更新することが予定されている。目標数値としては訪都外国人旅行者数2,500万人、外国人リピーター数1,500万人、訪都外国人消費額2兆7,000億円（いずれも2020年）などが掲げられた。

今後の取り組みの視点としては「観光の有力産業化」「新たな観光資源の開発」「魅力発信と効果的な誘致活動」「受入環境の充実」「東京の様々な主体の連携強化」「東京2020大会とその先を見据えた観光振興」が挙げられ、「消費拡大に向けた観光経営」「集客力が高く良質な観光資源の開発」「観光プロモーションの新たな展開」「MICE誘致の新たな展開」「外国人旅行者の受入環境の向上」「日本各地と連携した観光振興」の6つ戦略に沿った具体的な施策が提示された。

2018年2月に策定された2018年度プランでは、前出の訪都外国人旅行者数も目標数値達成のため、新たに欧米豪（500万人）、東アジア（1,550万人）、東南アジア+インド（370万人）の市場別に目標数値のブレイクダウンを行っている。また、新たな施策展開として観光ボランティアの活動エリア（新宿・上野・浅草・銀座）の拡大やラグビーワールドカップ2019TMを契機とした国内開催都市と連携したプロモーションなどが盛り込まれた。

#### ●ユニークベニューのPRパンフレットを作成（東京都）

東京都と（公財）東京観光財団は、特別感や地域特性を演出できる都内の各種施設をユニークベニューとして活用し、MICE開催都市としての魅力をPRするため、それらの施設を紹介するパンフレットを2017年3月に作成した。写真を多用し施設のイメージを分かりやすく伝えるとともに、利用条件などの実用的な情報も掲載している。2018年3月には新たに16施設を加え、改訂版を発行した（表IV-3-1）。

表IV-3-1 東京都のユニークベニュー

|            |   |   |
|------------|---|---|
| 都立施設       | 8 | 浜離宮恩賜庭園、清澄庭園、東京都庭園美術館、東京都美術館、東京都写真美術館、江戸東京たてもの園、葛西臨海水族園、東京都庁45階南展望室               |
| 美術館・博物館    | 5 | すみだ北斎美術館、上野の森美術館、刀剣博物館、サントリー美術館、山種美術館   |
| 神社仏閣       | 5 | 乃木神社、池上本門寺、回向院、題経寺(柴又帝釈天)、深大寺   |
| 屋外空間       | 6 | 福德の森、東京スカイツリータウン(R)、六本木ヒルズアリーナ・毛利庭園、虎ノ門ヒルズオーバル広場、アーク・カラヤン広場、大手町仲通り                |
| テーマパーク・水族園 | 7 | マダム・タッソー東京、キッザニア東京、よみうりランド、サンリオピューロランド、宇宙ミュージアムTeNQ、SKY CIRCUSサンシャイン60展望台、しながわ水族館 |
| その他        | 7 | 3×3 Lab Future、寺田倉庫、観世能楽堂、東急プラザ銀座、大井競馬場(東京シティ競馬)、フジテレビジョン「フォーラム」、角川大映スタジオ         |

資料：東京都「Tokyo Unique Venues」、下線は追加施設

### ●「東京観光バリアフリー情報ガイド」に新コース追加(東京都)

東京都は、webサイト「東京観光バリアフリー情報ガイド」を開設し、エリア別(都心・副都心、城東、城南、城北・城西、多摩の5エリア)・テーマ別(歴史・文化、下町、ショッピング、自然、アミューズメントの5テーマ)から選択できる都内観光のコースをピックアップし、各コースのスタートからゴールまでの順路に加え、ルート上のバリア情報とバリアフリー情報、移動時のポイントなどを地図情報として提供している。同サイトでは2017年版として新たに10コース(表IV-3-2)を追加し、計30コースを紹介している。

表IV-3-2 東京観光バリアフリー情報ガイド新コース

| コース名称     |                     |
|-----------|---------------------|
| 湯島・御茶ノ水   | 江戸の総鎮守と学問ゆかりの地      |
| 銀座・有楽町    | 江戸と諸国漫遊アンテナショップめぐり  |
| お台場       | 東京の海とアミューズメント       |
| 品川・羽田     | 江戸と東京の玄関を見くらべよう     |
| 深川        | 粋と人情の門前町            |
| 巢鴨・王子・荒川  | 都電でぶらり下町散歩          |
| 谷中・根津・千駄木 | 寺町と下町商店街の谷根千散歩      |
| 柴又・亀有     | 下町の人気者寅さん&両さんゆかりの葛飾 |
| 深大寺・高幡不動  | 鬼太郎と新選組ゆかりの寺院と門前町   |
| 小金井・狭山    | 昭和の町並みと武蔵野の自然       |

資料：東京都「東京観光バリアフリー情報ガイド」

### ●「外国人おもてなし語学ボランティア」の育成(東京都)

東京都は、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を視野に入れ、外国人観光客などが安心して滞在できる環境を整える一環として、2015年度より「外国人おもてなし語学ボランティア」の育成に取り組んできた。参加者は語学力に応じ、「おもてなし講座」のみのコース(一定程度の語学力を有する人向け)と「同講座と語学講座(英語)を組み合わせたコース」(入門～初級の語学力の人向け)から選択することができる。2017年4月には専用ウェブサイトを開設し、同ボラ

ンティアの制度の周知を図るとともに、講座受講生のフォローアップにも取り組んでいる。

### ●2017年度からの総合計画策定(新潟県)

新潟県では、今後の県政運営の総合的・基本的な指針となる最上位の行政計画である、新たな総合計画「にいがた未来創造プラン」を2018年1月に策定した。計画期間は2017～2024年度の8年間で、4年ごとに見直しを行う。

基本理念「命と暮らしが守られ、一人一人が未来への希望を持って自らの幸福を実現できる新潟県を創る～現在と未来への責任を果たす県づくり～」をふまえて5つの将来像をかかげた。観光政策は、4つめの将来像「魅力と賑わいのある新潟」実現のために位置づけられ、「国内外に通用する魅力ある観光地づくり」「魅力ある観光地のPRと国内外からの観光客誘致の推進」「スポーツと文化を活かした地域づくりによる交流拡大」に向けた政策が提案された。

なお、農林水産業関連の目標である「暮らせる・稼げる21世紀型農林水産業の実現」の中で、農林漁業者の所得向上に向け、グリーン・ツーリズムにおいて教育旅行のみならず大人誘客拡大の必要性が示された。

### ●新潟空港の「アクセス改善の基本的考え方」「路線ネットワーク戦略2017」を策定(新潟県)

新潟県では、新潟空港利用者増加を目標とし、空港へのアクセス改善に向けた県の方針「新潟空港アクセス改善の基本的考え方」を2017年12月に策定した。直行リムジンバスの運行、タクシー定額運行ルート構築、駐車場料金の低廉化など、2018年度から中短期的取り組みを進めている。

さらに、新潟空港の航空路線ネットワーク充実と、空港の利便性向上を目指すべく、県と関係者が一体となった取り組みを行うための行動指針を「新潟空港の路線ネットワーク戦略2017」としてまとめた。この戦略では、既存路線の充実や新規国際線誘致に向けた戦略的エアポートセールスなどが盛り込まれた。

### ②広域・市区町村レベル

#### ●登山者安全対策「山のグレーディング」

新潟県、長野県、山梨県、静岡県は、2014年の「中央日本四県サミット」合意に基づき、2014年6月の長野県を皮切りに「山のグレーディング(難易度)」を設定、適宜追加や見直しを行っている。これは、登山者増加に伴う山岳遭難事故防止策の一環であり、各県内の主な登山ルート(無積雪期)を体力・技術別の難易度に分けて表にしたもので、ホームページやリーフレットなどで公開している。2017年度には栃木県が「山のグレーディング」を作成、2018年4月現在、全国8県1山系で824ルートを評価している。

また、世界遺産富士山など、多くの山岳資源を有する山梨県は、登山の安全を確保する対策の検討を行い、2017年10月に「登山の安全の確保に関する条例」を制定・交付した。

#### ●茨城県内広域レンタサイクルシステムスタート

茨城県及び県内7市(土浦市、石岡市、つくば市、潮来市、

かすみがうら市、桜川市、行方市)は、つくば霞ヶ浦りんりんロード(同県14市町村にまたがるサイクリングロード、総延長約180km。以下、同ロード)が整備されている水郷筑波地域を訪れる旅行者などが、気軽に手ぶらでサイクリングを楽しめるよう、県内8か所の施設で貸出・返却が可能なレンタサイクル事業を実施した(2017年4月22日から2018年3月31日。ただし12~1月は休止)。2018年7月には、同ロードの情報発信や環境整備を官民一体で進め誘客を図るべく、「つくば霞ヶ浦りんりんロード利活用推進協議会」(会長は茨城県知事)が発足した。

#### ●東京の自然(多摩と島しょ)の活用

東京都は、世界有数の大都市であり、かつ多摩地区と島しょ地区には豊かな自然を有している。そこで、そうした自然を活用した新しい余暇の過ごし方を提案し、先進的な取り組みを広げる事業「Nature Tokyo Experience」を2017年度に実施した。「ガストロノミーリズム」や「常設型グランピング」などのプロジェクトが募集・選定された。

他にも、「縁結び」や「外国人旅行者向け」の多摩・島しょ地域を周遊する新たな旅行商品の造成・販売事業に対して必要経費の一部を補助する「多摩・島しょ地域旅行商品造成支援事業」や、多摩・島しょ地域の魅力を発信する国内集中プロモーション(駅貼りポスター、パンフレットなど)が実施された。また、スマホを使った新サービス「しまぼ通貨」の販売(プレミアム付き宿泊旅行商品券。2017年10月2日~2018年3月31日の期間販売。予定販売数12万セット)と、「電子しまぼ」(2017年7月1日スタートの「東京島めぐりPASSPORT」のスマホ版)がスタートした。

#### ●東京と地方との連携

東京都は、2020年に向けて、東京を訪れた外国人個人旅行者が他のエリアも訪れるよう促す連携事業を実施した。これは、都が日本各地と連携して、双方の強みを活かし、双方に高い効果が見込まれる産業振興施策を「ALL JAPAN & TOKYO プロジェクト」として実施しており、その一環である。2017年度は、中国地域5県・四国地域4県、九州、北陸地域と連携した。観光資源や同地域へのアクセスを成田空港や都内鉄道(駅・車内)、国際線機内誌広告等を用いてPRしたり、外国語でのウェブサイトの制作や海外メディア招聘旅行などを実施した。

#### ●「ロッテアライリゾート」グランドオープン(新潟県妙高市) 新潟県妙高市の「ロッテアライリゾート」が2017年12月にグ

ランドオープンした。この施設は、かつてはスキー場とレストラン、ホテルを備えた滞在型レジャー施設で、1993年に民間企業や新井市(当時)が出資して開発した。しかし利用客の減少で2006年に運営会社が経営破綻して営業を停止していた。約200万㎡の土地と建物は市税の滞納で公売にかけられ、2015年6月に民間企業が落札、全面リニューアルしての再オープンとなった。国内最大のジップラインやスキー場(11コース)、ホテル(257室)を有し、多彩な施設で長期滞在にも対応できる。

#### ●東京ディズニーランド大規模開発に着手

株式会社オリエンタルランドは、2017年4月に東京ディズニーランド(TDL)の大規模開発に着手した。「美女と野獣」をテーマとしたエリアや新アトラクションなど、2パーク(TDL、東京ディズニーシー(TDS))開園以来最大となる750億円の投資が想定されており、2020年春オープン予定である。

さらに、同社は、TDSの大規模拡張プロジェクトを2018年6月に発表した。既存施設への追加投資としては過去最高となる約2,500億円をかけ、2022年度中の開業を目指す。

#### ●首都圏内自動車道の整備進展

首都高速道路の晴海出入口~豊洲出入口間が2018年3月10日に開通した。豊洲地区から運河を渡るわずか1.2kmの区間で、首都高の他路線とは接続しない。晴海地区にはタワーマンションやオフィスビルが林立しているほか、晴海客船ターミナル付近には2020年東京オリンピック・パラリンピックの選手村が建設中であり、豊洲地区や臨海部では、2018年10月に築地市場から移転する予定の豊洲新市場やオリンピックの各種競技施設も建設されている。近隣の渋滞緩和、臨海部における防災機能の強化に寄与するほか、選手村へのアクセス向上効果が期待される。

首都圏内では、首都圏中央連絡自動車道(以下、圏央道)が2017年2月の境古河IC - つくば中央IC間開通により茨城県内で全通、さらに東北自動車道と常磐自動車道が圏央道経由で結ばれ、新湘南バイパスから東名高速道路、中央自動車道、関越自動車道、東北自動車道、常磐自動車道を介して、東関東自動車道までの間が首都高速道路を経由する事なく結ばれた。2018年1月には海老名南JCT開通により、圏央道と新東名高速道路が接続した。東京外環自動車道も、2018年6月に埼玉県の三郷南IC - 高谷JCT間15.5kmが開通し、京葉JCTで京葉道路、高谷JCTで東関東自動車道・首都高速湾岸線と接続した。

(朝倉はるみ 堀木美告)